

歌壇

櫻井 登世子 選

学校の跡地に出でし水路跡江戸の暮らしに心は遊ぶ

水道 菅井 茂子

喜寿過ぎし兄の暮しを尋ねるに一日除染に汗すると云う

ひとひ

水道 高木 マリ

古き街のしきたり今に火の用心拍子木打ちつつ夜ごとまわり来

大塚 加藤 喜雄

冬枯れの林に松のみどり映え遊歩道の片之水仙の咲く

西片 松林 利枝

本日の放射線量告げし後六時のニュース終らんとす

向丘 三宅 あき子

毎朝の都営三田線二輛目にあなたを認めて始まる一日

西片 鈴木 真理子

桃色の壁に擬態のこのヤモリ春日通りのビルにはりつく

小石川 白鳥 茂子

体力の限界につき閉店の張紙に吾は礼して過ぎぬ

いや

千駄木 伊藤 惠津子

晩秋の坂に枯葉の吹かれくる坂下に見つ茜雲をば

白山 宮田 要

秋深し望の月影変らねど人も吾が身ももとはあらず

西片 長尾 謙一

俳壇

松澤 雅世 選

銀杏の今落ちし実を拾いけり

向丘 高野 伸子

デートリツヒのやうな横顔冬帽子

向丘 三宅 あき子

年あらた死無き道を大らかに

小石川 後藤 伝一郎

初はつなぎ風や海に向かひし六地蔵

向丘 荒田 栄子

追憶と柵しがらみ交ざる冬木立

小日向 内野 仙也

初日今水平線を抜けんとなす

西片 白井 良治

図書館の本の重さや冬籠り

水道 高木 敏之

木守柿みそら深空彩どる百余り

千石 本堂 春江

老いて今時空を得たり春ごたつ

向丘 山崎 愛子

ふところ手客待ち顔の香具師やし一人

湯島 山添 昭子